

# 東京工業大学・清華大学合同プログラム

## 社会理工学コース合同シンポジウム

2015年12月5日～6日 於：東工大蔵前会館手島精一記念会議室



**東京工業大学—清華大学合同シンポジウム**  
 東京工業大学—清華大学聯合学术报告会  
 Tokyo Tech-Tsinghua University Joint Symposium

日時：2015年12月5日(土)～6日(日)  
 主催：東工大・清華大大学院合同プログラム社会理工学コース  
 問い合わせ先: 東工大農事務室 03-5734-7650

**発表スケジュール**

12月5日(土)会場 — 蔵前会館 手島精一記念会議室

13:00-13:30 開会式 飯塚システム専攻 (兼任) 外国語センター 教授  
 『英語で書くことの意味を考える』

13:30-14:00 王婉儀 WANG Wanying 清華大大学院 外国語文学系 教授  
 『実質語機能語の共起関係について』

14:00-14:30 山元啓史 人間行動システム専攻 (兼任) 留学生センター 准教授  
 『やまごころばせのための情報学』

14:30-15:00 鄭英紅 ZHENG Yinghong 清華大社会科学学院 心機学系 副教授  
 Time pressure and duration judgement

15:00-15:30 休席

15:30-16:00 ヒュー・デフレンティ 飯塚システム専攻 (兼任) 外国語センター 教授  
 Music in imperial Japan's outer territories (guchi 外境) :  
 The case of hwa in colonial Taiwan

16:00-16:30 寺井あすか 人間行動システム専攻 教授 白水優太郎 人間行動システム専攻 修士課程2年  
 中川正憲 人間行動システム専攻 教授

16:30-17:00 江麗華 JIANG Lihua 清華大大学院 中国語文学系 教授  
 Semantic computing of spatial metaphor based on deaf persons' cognition cases

12月6日(日)会場 — 蔵前会館 手島精一記念会議室

10:00-10:30 岸上北太郎 経営工学 教授  
 Individual Sense of Managers and Corporate Investment

10:30-11:00 李麗華 LI Beiping 清華大社会科学学院 社会学研究所 専任講師  
 『中国経済の増進成長とターン・ポイント経路 :  
 Sraffa Okishio-Nakamura型3部門モデルを基礎として』

11:00-11:30 謝志強 CHENG Zhiqiang 経営工学 准教授  
 The Localization of the Japanese Convenience Store FamilyMart in Taiwan

11:30-12:00 劉兵 LIU Bing 清華大社会科学学院 科学社会学研究所 教授  
 The understanding of body and poison in Mongolian medicines

12:00-12:30 Lunch break

12:30-14:00 宇橋聡 YU Shouhongo 清華大社会科学学院政治学系 専任講師  
 Bureaucratic Judicialization under Fragmented Authoritarianism—  
 the Empowerment of Chinese Courts

14:00-14:30 楊麗 YANG Lina 清華大社会科学学院 科学社会学研究所 教授  
 李素静 清華大大学院 博士課程2年  
 『北京大学理科学研究所の設立について』

14:30-15:00 斎藤隆 社会工学専攻 教授  
 『産学協力のデザイン-新野北條の産学プロジェクト』

15:00-15:30 斎藤隆 飯塚システム専攻 社会工学専攻 (兼任) 教授  
 『リスク社会における科学的合理性と社会的合理性のギャップ。  
 On Linn Deliberative Public Reasonの構築より』

合同プログラムでは各コース年1回、合同シンポジウムを開催しています。

2015年度社会理工学コースは清華大より8名の先生方を招聘し、5日(土)は言語系、6日(日)は社会科学系に発表を分けて東工大大岡山キャンパス蔵前会館手島精一記念会議室にて開催いたしました。

5日は清華大側からは日本語の実質語機能語の共起関係や中国語の手話の統計解析等について、東工大側からは日本語の古語の文法や文生成の計算モデル等について各々研究発表があり、活発な質疑応答が行われました。

日本語研究をされている先生の実質語機能語「こと」の発表は 1.問題、出来事、仕事、2.事柄、価値、3.事実、事情、場合、様子、4.動作や状態と「こと」には多種の用法があり、日本語研究において難しい分野だという話は日々、日本語を気にせず使っている参加者にとって良い刺激になりました。

5日に参加された言語系の研究をされている先生方と聴講者との集合写真



6日は清華大側からは中国の潜在成長率やモンゴルの民間医療等について、東工大側からは管理者の特性が組織の投資判断に及ぼす影響、海岸防災のデザインや社会的リスク等について各々研究発表があり、互いに相手国の取り組みに興味津々で活発な質疑応答が行われました。

5日のシンポジウム終了後、懇親会が開催され、清華大から来日中の清華大11期生と清華大の先生方が近況報告をし、来夏に清華大に行く東工大12期生が清華大での研究の下調べも兼ねて、清華大の先生方に色々と教授いただき、だんだんと自分の進むべき道が見えてきたと留学への意欲が高まってきたようでした。

また、懇親会にはスポンサー企業の方々や同時期に来日していた清華大日本文化センター長の曲徳林先生も飛び入りでご出席、乾杯のご発声をいただきました。

何よりも関係者が嬉しかったのは東工大2期生（社会理工学コースとしては1期生）の佐藤広大さんが何年かぶりに顔を出してくれたことでした。10年後輩にあたる12期生に色々とアドバイスをしてくれ、逆に今のプログラム生がどんなに恵まれた環境になっているかに驚いていました。当時は奨学金もなかった環境で頑張っていた先輩たちの踏張りがあるからこそ、11年目の今があるということをつくづく感じずにはられません。先輩たちが切り拓き、後輩が後世に繋げていく、そのルーティンがうまく続くかがプログラム継続の鍵とも言えるのではないのでしょうか。

6日に参加された社会科学系の研究をされている先生方と聴講者との集合写真



中井社会理工学研究科長  
による懇親会開会の辞



懐かしいコース1期生とコース長

